

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-257950

(43)公開日 平成5年(1993)10月8日

(51)IntCl.⁴
G 0 6 F 15/21

識別記号 庁内整理番号
Z 7925-5L

F 1

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平4-53136

(22)出願日 平成4年(1992)3月12日

(71)出願人 390001395

関西日本電気ソフトウェア株式会社
大阪府大阪市中央区城見1丁目4番24号

(72)発明者 田中 康夫

大阪府大阪市中央区城見一丁目4番24号関
西日本電気ソフトウェア株式会社内

(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

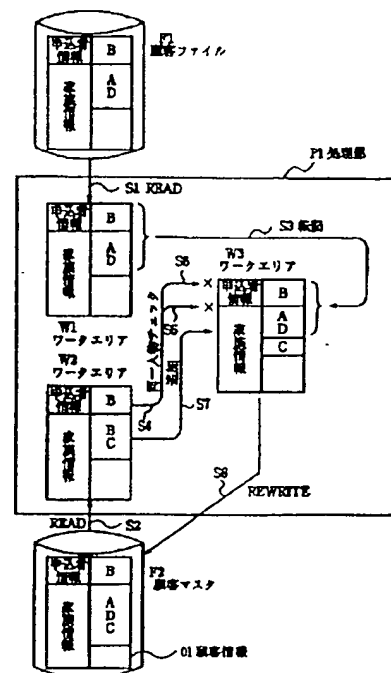
(54)【発明の名称】 顧客マスタ更新方式

(57)【要約】

【目的】登録用新顧客ファイル上の申込者を顧客マスタの申込者として登録する場合に於いて、顧客マスタ中の新情報を優先して活用することを目的とする。

【構成】登録用新顧客ファイルF1からREADした内容をワークエリアW3へ転記し、そこへ顧客マスタF2からREADした情報1個人づつ追加し、ワークエリアW3の内容で顧客マスタF2を更新する。

【効果】プログラムに於いて処理の負担が軽減されるだけでなく、顧客マスタの情報の中で、新しく登録された顧客に対して優先的にダイレクトメールを送送することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ダイレクトメール発行用の顧客マスタに関して登録用の新規の顧客情報と、既登録の顧客情報とが同一世帯である場合登録用の新規の顧客情報を基にして既登録の顧客情報を更新することを特徴とする顧客マスタ更新方式。

【請求項2】 既登録の第1の申込者情報と第1の家族情報とからなる第1の顧客情報を格納する顧客マスタと、新規の第2の申込者情報と第2の家族情報とからなる第2の顧客情報を格納する顧客ファイルと、前記第1の顧客情報を読み取って格納し前記第1の顧客情報のうち前記第2の顧客情報に含まれない第1の申込者情報および第1の家族情報を前記第2の顧客情報のうちの第2の家族情報に付加して台3の家族情報とし前記第2の申込者情報と前記第3の家族情報とからなる第3の顧客情報を前記顧客マスタに格納せしめる処理部とを含むことを特徴とする顧客マスタ更新方式。

【請求項3】 新規の第1の申込者情報と第1の家族情報とからなる第1の顧客情報を読み取って格納し、既登録の第2の申込者情報と第2の家族情報とからなる第2の顧客情報とを読み取って格納し、前記第1の顧客情報と前記第2の顧客情報とを相互に比較し、一致していない第2の顧客情報を前記第1の顧客情報のうちの家族情報に付加して第3の家族情報とし、前記第1の申込者情報と前記第3の家族情報とからなる第3の顧客情報として更新することを特徴とする顧客マスタ更新方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、顧客マスタ更新方式、特に、ダイレクトメール発送用の顧客マスタについて一世帯情報を管理情報として扱う顧客マスタ更新方式。

【0002】

【従来の技術】 従来の顧客マスタ更新方式は新規の申込者情報について既登録か否かのチェックを行い既登録ならば削除した後に、新規の家族情報と既登録の申込者情報および家族情報からなる顧客情報を家族情報として格納し、ソートを行ったのち同一家族情報の存否チェックを行ってあれば削除したのちに顧客マスタに登録するものであった。

【0003】 次に、従来例について図面を参照して説明する。

【0004】 図2に示す顧客マスタ更新方式は、登録用の新規の顧客情報を格納して顧客ファイルF1中の申込者情報を顧客マスタF2の申込者情報として登録する場合に顧客ファイルF1から動作ステップS1でREADして格納した処理部P2の中のワークエリアW1中の顧客情報と同一世帯の顧客情報が動作ステップS2で顧客マスタF3よりREADして格納されたワークエリアW2に存在するか否かの申込者情報の存否チェックを行う。

【0005】 すなわち、まず、動作ステップS9で新申込者設定のためワークエリアW4に申込者情報としてワークエリアW1の申込者情報を設定する。

【0006】 次に、動作ステップS10でワークエリアW1の申込者情報がワークエリアW2に存在するか否かをチェックし、存在する場合はワークエリアW2の同一人物データを削除する。

【0007】 動作ステップS11では、ワークエリアW1中の家族情報をワークエリアW4の家族情報として転記する。

【0008】 動作ステップS12では、ワークエリアW2中の削除された人物以外の申込者情報と家族情報とをワークエリアW4の家族情報として追加する。

【0009】 動作ステップS13では、ワークエリアW4の家族情報をソートして、ソート後の家族情報を申込者情報とともにワークエリアW5に格納する。

【0010】 動作ステップS14ではワークエリアW5の家族情報の名よせを行い、名よせ後の顧客情報をワークエリアW6に格納する。

【0011】 最後に、動作ステップS15でワークエリアW6の顧客情報を顧客マスタF3へREWRITEする。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、このような上述した従来の顧客マスタ更新方式は、更新後の家族情報が情報の新・旧に関わらず、ソートのキーの順番に並び、新しい情報を優先して活用することができないばかりでなく、更新処理に時間がかかるという欠点があった。

【0013】

【課題を解決するための手段】 本発明の顧客マスタ更新方式は、登録用の新規の顧客ファイルからREADした情報の家族情報へ顧客マスタからREADした情報を1個人づつ重複せずに追加する手段を有して構成される。

【0014】

【実施例】 次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0015】 図1は本発明の一実施例を示すシステム構成図である。

【0016】 図1に示す顧客マスタ更新方式は、動作ステップS1で登録用の新規の顧客情報を格納した新顧客ファイルF1からREADした顧客情報を処理部P1のワークエリアに格納するもので、申込者情報と同一世帯の家族情報とが格納され動作ステップS2で顧客マスタF2よりREADした既登録の顧客情報がワークエリアに格納される。

【0017】 動作ステップS3ではワークエリアW1の顧客情報を全てワークエリアW3へ転記する。

【0018】 動作ステップS4ではワークエリアW2に格納されている顧客情報を1人ずつワークエリアW3に

3

格納されている申込者情報および家族情報からなる顧客情報の全員に対して総あたりに同一人物チェックを行い、同一人物の場合は動作ステップS5、S6でワークエリアW3への家族情報としての追加を行わないが、同一人物でない場合は動作ステップS7でワークエリアW3の家族情報として追加を行う。全員についての処理が終わったか否かの終了チェックを行い、終了していない場合は動作ステップS4～S7の処理をくりかえすが終了した場合は動作ステップS8でワークエリアW3に格納されている顧客情報を顧客マスタF2へREWRITE 10

【0019】これにより登録用新顧客情報に基づき顧客マスタを更新することができ、既登録の顧客情報は新規の顧客情報の少なくとも後に格納されることとなる。

【0020】

4

【発明の効果】本発明の顧客マスタ更新方式は、新規申込者情報の既登録チェックと同一家族情報の存否チェックを行う代りに新旧の顧客情報について同一人物の存否チェックを行うことにより、処理段階を削減できるので、更新時間を短縮できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

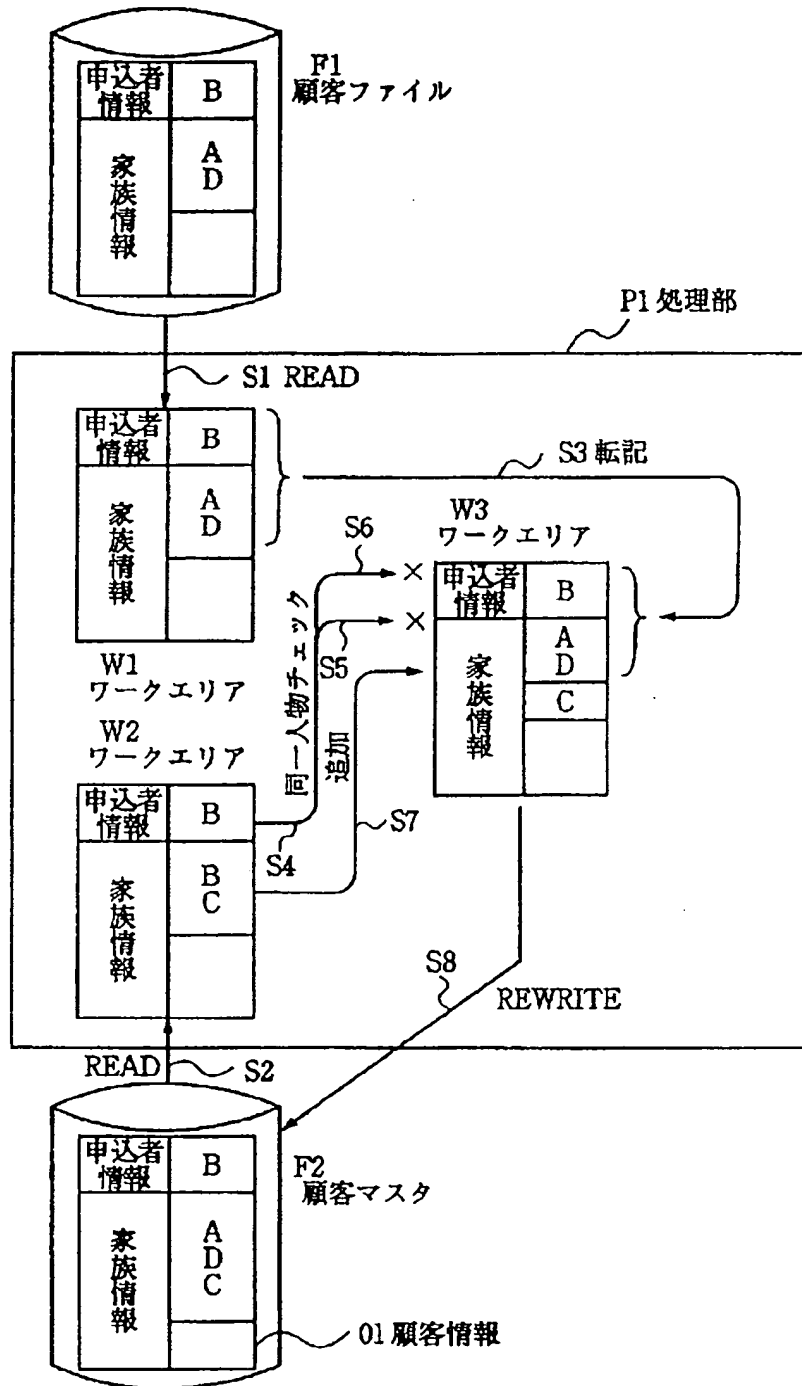
【図1】本発明の一実施例を示すシステム構成図。

【図2】従来の一例を示すシステム構成図。

【符号の説明】

P1, P2 処理部
F1 顧客ファイル
F2, F3 顧客マスタ
W1～W6 ワークエリア
D1, D2 顧客情報
S1～S5 動作ステップ

【図1】



【図2】

